

高西地区 から こんにちは
今月の 気になる人

大野見地区より

「北の里」へ行くのが楽しみ♪

まさおか
正岡 ウシノさん(100)



大正10年生まれのウシノさん。7月の誕生日に、なんと100歳を迎えられました！おめでとうございます！

ウシノさんは、四万十町東又より17歳で稼いで来られ、農業・林業・産廃業の傍ら、子育てや家事もこなしてきました。今も毎朝、お味噌汁とお漬物は欠かしません。最近「北の里」で体操をしたり、お友達とお喋りや、手作り工作をするのが楽しみになっています。

自慢の力作を手ハイポーズ！いつまでもお元気でいてくださいね♪

東津野地区より

また捕れたで～！

いせきもりお
井関 守雄さん(78)



津野町烏出川(からすがわ)の井関 守雄さん。祖父の代から狩猟を行っており、守雄さんも幼い頃から山でイノシシやシカを追いかけてきました。写真は守雄さんが7月31日に罾で捕獲したシカだそうです！現在のイノシシやシカの状況を伺うと、「イノシシよりもシカが多くなってきゆね～」と教えてくれました。守雄さんは捕獲した鳥獣の「命」を大切に頂き、安らかに供養できるよう、家の傍らに石碑を建てて霊を祀っています。

たくさんの山を走り回りとても危険を伴うお仕事ですが、これからもお身体に気を付けて頑張ってください。

梶原地区より

一生懸命学んでいます！

やまもとゆりこ
山本 友理子さん(31)



梶原町上本村の土佐甘とう農家のもとで働く山本さん。出身は大阪府ですが農業に憧れ高知を訪れ、結婚を機に梶原町へ移住してきました。

山本さんを受け入れている農家は津野山地域の土佐甘とう部会長の岡田 毅(おかだ つよし)さんです。山本さん自身も将来はこの地域で就農して農家として自立したいという目標があり、篤農家として活躍する岡田部会長からたくさんの知識や技術を習得しています。目標達成に向けて頑張ってください。

コロナに負けず、頑張ります！

むらたこうめい
村田 紘盟さん(26)

興津地区より



興津でミョウガ、ピーマンを栽培している笑顔が素敵な村田さん。家族が農業をされているため、地元に戻ってきたのを機に22歳から手伝うようになりました。中高の時から剣道部に所属していたこともあり、スティックで体を動かすことが大好きで、仕事に支障をきたすことのないように体を鍛えているそうです。

趣味は相撲観戦と飲みに行くことですが、「コロナの時期と重なり、友達とも会えない」と話されていました。毎日、朝早くから仕事に励まれているようで早くコロナが収まって趣味が充実できるようになることを願うばかりです。

赤い看板が目印 末広食堂

左から にしい さと
西井 聖さん(71)
かわはな けんじろう
川端 建二郎さん(48)
いづみ まさみ
岩井 真佐美さん(76)

四万十地区より



JR窪川駅を出るとすぐ、道路の向かい側に見える「末広食堂」。メニューには昔ながらのものから、四万十豚を使った丼もの、定食などが並び、お昼時には地元の人や役場の職員がたくさん訪れにぎわいます。

昭和25年に開業し、今年で創業70年を迎えた末広食堂は、現在3代目の川端建二郎さんが料理を作り、末広旅館を経営する母親の岩井真佐美さんが接客しています。建二郎さんはもともと建設業で働いていましたが、初代のお祖母さんが亡くなったあと退職し調理師免許を取得。高知市内の料理店で修業したのち、この食堂を継ぎました。

「『末広食堂』という名前をできるだけ残していきたい。」そういう思いで頑張っているそうです。これからも私たちのお腹を、おいしいご飯で満たしてくださいね！



できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



たくさんのお米を積んだトラックが続いています

1 四万十地域

カントリーエレベーター安全祈願祭を開催

8月10日、米の収穫を前に、四万十町東大奈路のカントリーエレベーターで安全祈願祭が開かれました。カントリーエレベーター利用組合の下元誠一郎組合長やJA役職員ら13人が参加し、大三嶋神社の岩崎猛宮司を迎え神事を行いました。

カントリーエレベーターは県内では唯一の施設で、2台の大型乾燥機や籾を長期保管できる大型サイロなどの設備を備え、管内の水稻農家約300戸からの受け入れを行っています。

今年、8月24日から早期米の受け入れが始まり、あきたこまちや飼料用米が連日持ち込まれました。適正な運営のために人員を増員し、JAの他部署からも職員が応援に加わるなど、職員一丸となって10月14日まで受け入れ作業を行います。受け入れたにこまるとヒノヒカリ、あきたこまち等の米は順次籾摺り作業を行い、仁井田米として県内主体に出荷していきます。



生産者と協力した選果作業

2 津野山地域

「土佐甘とう」出荷最盛期

津野山特産品の「土佐甘とう」が出荷の最盛期を迎えています。今年4月の定植以降、早い梅雨入りなどによる生育不良のため初期収量が伸び悩んでいました。しかし7月以降は天候にも恵まれ、第一回目の出荷ピークが訪れました。7月だけで比較すると前年の140%を超える出荷量となり、JA選果場では生産者にも選果作業に参加してもらい出荷のピークを乗り越えました。8月中旬以降からは雨続きで落花も多く出荷量が減少していましたが、9月上旬には第2回目のピークが訪れる予定となっています。JAや選果員さんも少ない中、地区間での協力体制や生産者からの協力を得ながら今年の出荷を乗り越えていきたいと思えます。生産者の皆様の「ご協力」に感謝いたします。

3 四万十地域 豊作、安全を願って 興津八幡宮で種祭り



今年の豊作を願っています

興津園芸部は8月6日、高知県四万十町の興津八幡宮で「種祭り」を開催し、次作の豊作を願いました。園芸部員と農協職員12人が玉串を奉奠しました。種祭りは、ミヨウガやピーマンの作付はじめに合わせて開き、災害や病気にあわないよう豊作を願うものです。昭和35年代半ばから園芸年度切り替え前の8月に毎年行っており、参加者は宮司の祈禱に合わせ和太鼓や拍子木を鳴らし祈念しました。

園芸部の中嶋崇部長は「部員らが農作業での事故がなく、豊作で安心して暮らしていただけるように願いました」と話していました。

4 津野山地域

天敵昆虫大活躍



甘とうの花上で害虫を狙うタバコスカカメ

津野山地域の基幹品目「土佐甘とう、米ナス」では天敵昆虫を用いた害虫対策に力を入れており、導入率も年々向上してきています。特に土着天敵の「タバコスカカメ」についてはアザミウマやコナジラミなど多くの害虫を捕食するため、導入していない農家の方が珍しくいらいまで浸透してきました。こういった天敵の活用により特に「アザミウマ類」に対する農薬使用頻度はかなり抑えられています。農家の高齢化も進む地域で少しでも省力化に取組み持続可能な農業を実現させるためには、この「天敵昆虫」は必要不可欠な存在になっています。

5 四万十地域 農業用資材廃ポリの回収



生産者から搬入された廃ポリを回収

7月27日から29日にかけて、四万十町東大奈路で農業用廃ビニール・廃塩化ビニールパイプ等の集荷作業が行われました。肥料袋のポリフィルムや張替で不要になったビニールなどの農業資材は適正処理が義務付けられており、定期的に回収を行っています。今回は62・9tの資材が集まりました。廃ポリの回収については、回収できないものもあるため、事前に分別しておくことが必要となっています。詳しくは営農総合センター営農指導課までお問合せください。

6 四万十・津野山地域

経済部署のスキルアップ！



ルールを使用し農業使用方法を確かめます

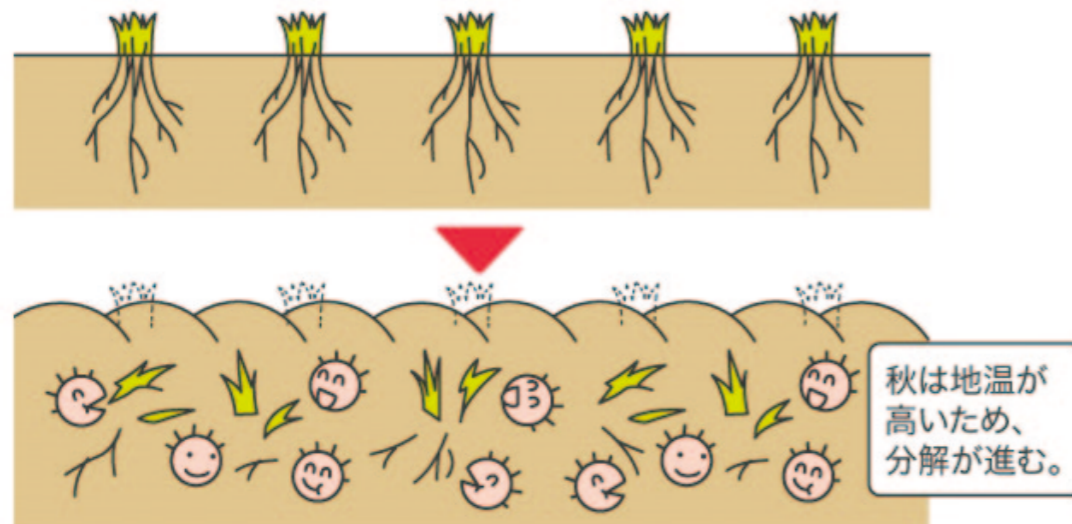
高西地区では経済部署の若手職員に対して営農相談員研修を月に一度開催しています。営農相談員研修は新採職員や異動により経済部署所属となった職員がいち早く経済の特殊な業務内容や知識を身につけ、スムーズに日々の業務に励むことができるようにすることが狙いです。研修内容は営農・販売・購買に関わる知識や、管内の農産物生産状況など多岐にわたります。実際に農家圃場を訪問し目で見て確かめる現地研修や、ルール電子図書館を利用した実践的な研修にも力を入れています。

STOP 稲わらの放置！ ～秋起こしが次作の生育を決める～

水田に残った稲わらは放置せず、しっかりすき込みましょう。秋起こしは単に土を耕すだけでなく、微生物による有機物の分解促進や土壌の下の方に集積した養分の混和などの効果を持ち、作物の生育環境を最適に整えるための大切な作業です。また収穫直後の地温の高い時期は、土壌中の微生物の活動が良い為その時期に実施することで**有機物の分解を最大限に発揮**させることができます。

稲わらのすき込みと同時に土壌改良資材を施用することで、ワラ及び稲株の分解、腐熟の促進と有機物や微量元素の補給につながります。

※稲わらの放置は次作のガス害を引き起こし、生育不良の原因となります。



【稲刈り以降～元肥までに施用できる資材】

資材名	施用量	施用時期	備考
根友G	20～40kg	稲刈り後早めに	微生物土壌改良剤、稲わらすき込み時に施用
鉄強化美土里	60kg	稲刈り後早めに	地力向上に向けたケイ酸・鉄分の補給
ケイカル	120～200kg	稲刈り後～元肥期	ケイ酸の補給
ミネラル宝素	60～100kg	稲刈り後～元肥期	ケイ酸を主体に微量元素を含む資材

※稲刈り後、土壌分析による土壌診断を希望される方はJA営農経済センターへ土を持参してください。
(11月広報で土壌分析のご案内を致します)

連絡先：津野山営農経済センター 経済課 (TEL. 0889-62-2335)
四万十営農経済センター 営農指導課 (TEL. 0880-22-5179)



四万十・津野山地域より

今秋が肝心！ 来年の稲づくりに向けて

生産性の維持向上のために土づくりを
必ず実施しましょう

近年の水稲栽培においては冷夏や長雨、記録的な猛暑などに悩まされることが多くなっています。これらの異常気象により稲の活力が低下し、品質や食味の低下に繋がっています。厳しい環境条件の下で生産性を維持するためには、**土壌ケイ酸分の確保、腐植率の向上、適正PHの維持**に努める必要があります。特に土壌改良資材を稲刈り後の年内のうちに施用し耕耘することをオススメします。

◆ケイ酸の必要性

ケイ酸は水稲の耐病性、倒伏防止の大きな効果があり稔実歩合を高めます。毎年実施する土壌分析の結果からもケイ酸が不足している圃場が多く見受けられます。ケイ酸含有量の少ない土壌ではケイ酸を含む肥料を施用しましょう。

◆腐植の向上

腐植は作土層の物理的な改善と土壌中の微生物活性を高めます。稲わらや堆肥等の有機物を稲刈り後～年末に施用し、土壌に馴染ませることが効果的です。

※四万十地区では堆肥散布の助成がありますのでご活用ください。

◆適正PHの維持

水稲栽培において適正とされるPH6（弱酸性）を目標に石灰質肥料を施用しましょう。

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

俳句

霧の里句会

万緑の中や滝音静かなり
蛍飛ぶ子供の音が透き通る

武政 礼子

堰の水たたへ鳥居に姥ゆり咲く
古里は分け合ふならひ瓜茄子

市川 和美

夏草や媪見せ合ふ昭和の手
花錆びし庭のくちなし香をとどめ

今橋 孝子

雨の中庭を飛び交ふ揚羽蝶
甲子園選手の汗や無観客

田中 信子

初夏の今日子に連れられて医者通ひ
やれ嬉し7月の御空晴れにけり

竹内 春猪

目が冴えて句作に更ける夏の夜
雨の庭伸び放題に夏の草

西宮 正衛

山百合の斜面しらじらなだれ咲く
籠り居る雨雨夏の夏了る

長谷部 延子

短歌

窪川短歌教室

娘から財布が届き父の日を嬉しさ隠せぬ夫の横顔

中内 佐登美

目の色に本音さぐりて政治家のマスク越しなる対策を聞く

黒岩 やよえ

草勢う梅雨の晴れ間の栗畑の上を群れなしアキアカネ飛ぶ

島岡 紀美

はんげしろう白く咲きたつ草叢を激しく揺らし雷雨はしれり

市川 隆子

しづくする楓若葉のエネルギー浴びて歩かん後十五分

文野 見枝子

こんな風にはゆくのかワクチンをうちて秒針見つめし十五分

市川 浩子

雨やまず雑草きそう花畑に立葵の紅りんりと見ゆ

北村 さちこ

【各支所連絡先】

四万十支所

0880-22-0003

梶原支所

0889-65-0111

興津支所

0880-25-0002

東津野支所

0889-62-2211

大野見支所

0889-57-2321

葬祭会館 ルミエール四万十

0880-22-5900

(株)JAメモリアルこうち 津野山出張所

0889-40-1955

事故受付など 高西サービスセンター

0889-40-4141

おたよりから

いつも知り合いなどが出ていて楽しく拝見させて貰っています。

(四万十町・43歳・男性)

毎回花のある暮らしも楽しみにしています。高知にこんな花があるのかとおどろくことが多いです!!

(四万十町・64歳・女性)

うちのくの台所の女性部レシビも大変参考になります。

(津野町・54歳・女性)

俳句

法界火独り火の粉受けてをり

(津野町・村田 三喜子)